

福井診断士会

教科書で見た補修工事 現場見学会で実体験

北陸自動車道・親不知海岸高架橋

ができ、貴重な経験を「した」などの声があがった。

親不知は北陸道最大の難所として知られ、同高架橋は国内で最も厳しい劣化環境下にあるとされる。同見学会では、発注者である日本道路公団新潟管理局の北館和徳上越管理事務所改良担当課長が工事概要を説明。続いて補修工事が行われている高架橋の足場に昇り、工事の様子を3工区にわたって見学した。

見学した補修工事は、予防保全として行われているコンクリート塗装工、防錆剤混入モルタルによる断面修復工、脱塩工。同公団の鈴木嘉一上越管理事務所施工管理員、プロテックの南馬越光弘作業所長、ショールド建設の佐野範聡作業所長、シビルリニューアルの芳賀利行作業所長などが説明した。

参加した診断士からは「初めて見る工法ばかりで興味深い見学会」と好評だった。

同会主催の研修会は福井県中小企業団体中央会の「平成17年度ニュービジネス展開促進事業（異業種交流促進枠）」に認められ、今後、補助を受けることも決まった。

福井県コンクリート診

断士会（石川裕夏会長）

は7月26日、北陸自動車道・親不知海岸高架橋上部工塩害対策工事（新潟県糸魚川市）の現場見学会を開催した。会員向けアンケートや意見交換で「補修工事の現場を見てみたい」という声が多かったことに応えて企画したもので、正会員15人、

賛助法人社員3人の計18人が参加。「教科書でしか見たことのない補修工事を実際に見ること

高架橋上部工の塩害対策工事を見学

